



# 有田町歴史民俗資料館 西館

## 「原始～中世」展示室オープン



有田町歴史民俗資料館西館

有田町には、歴史民俗資料館という名称の建物が2館あるのをご存じでしょうか。一つは有田町歴史民俗資料館の“東館”。磁器原料の採掘場として知られる泉山磁石場に近接し、渡り廊下を通じて、有田焼参考館も併設しています。もう一つは、縄文アラカシが出土した坂ノ下遺跡に近接する資料館で“西館”と命名されています。

この有田町歴史民俗資料館“西館”は、昭和53年(1978)に合併前の旧西有田町の資料館としてオープンしました。当時は、西有田町に所在する旧石器時代から縄文時代の石器や土器、窯跡出土の陶片、町重要文化財の「明代青磁皿」、民具や農具などが展示されていました。

平成18年(2006)の西有田町と有田町の合併に際し、2つの資料館をどのように活用すべきか検討を重ね、東館は職員を配置して常時開館するものの、人的配置や予算の関係で、西館は平常時は閉館し見学希望があれば、そのつど東館から職員が出向き開館することになりました。

この西館は、本来展示室は東西2部屋あるのですが、収蔵庫が確保できないことから、東側の民俗資料の展示室のみ公開し、西側の展示室は収蔵庫と化していました。しかし、数年前から西側の展示室も公開すべく整理作業を進めたところ、今回、ようやく西側の展示室の一部にスペースを設け、窯業開始以前の中世までの資料を展示することができました。

この西館に展示した原始から中世の資料の多くは、文化財保護に尽力された方々や町の歴史に感心を寄せ

られた方々など、町民の皆さまから寄贈されたものです。その主なものは、黒曜石製の石器や縄文土器で、圃場整備等で壊滅した多くの遺跡から採集されたものです。また、寄贈資料以外では、平成30年(2018)の「唐船築城800年記念事業」の一環として行った、唐船城周辺の発掘調査出土資料や、奈良大学の千田嘉博教授監修のもと歴史復元画家の富永商太さんをお願いした唐船城の復元図なども展示しています。

新装した西館の見学をご希望の方は、有田町歴史民俗資料館東館(TEL. 0955-43-2678)でご連絡をお待ちしております。やきものだけではなく、古くから育まれてきた有田町の別の歴史的側面をご堪能いただけるものと思います。(伊達 惇一郎)



展示品(石器・土器)



「明代青磁皿」



唐船城南側(復元図) 絵: 富永商太 監修: 千田嘉博

皿 季刊 山

No.124

冬  
2019

有田町歴史民俗資料館・館報

# 企画展「わがまち アリタの 平成史」 開催中

会期：令和元年11月9日(土)～12月15日(日)

会期中無休・入館無料

11月9日(土)から、今年度の企画展「わがまち アリタの 平成史」を開催しています。今年、30年以上続いた「平成」という一つの時代が幕を下ろし、新しい「令和」という時代を迎えましたが、改めて「平成の有田」とはどのような時代だったのか、「まちづくり」の観点から紹介します。



セラミーがお出迎え

## 1. 平成アリタ事件簿

平成の間にアリタで起こった出来事を、当時の流行語やキーワードとともに紹介しています。節目の年にアリタで何が起こったのか、思い出してみてください。

## 2. アリタとアジアとアグリカルチャー

「農のまち」西有田町は、地域活性化の一環として始まっていた田植唄大会を、「田植唄アジアフェスティバル」という国際大会へと昇華させ、人情味あふれる生きた国際交流を展開しました。当時のマスコットキャラクター「ビッキー」は、現在も有田産農産物のマスコットとして活躍しています。

## 3. 開幕！世界焔の博覧会

平成アリタの一大イベントといっても過言ではない「世界焔の博覧会」。これはアリタのまちづくりの大きな転換でもありました。バブル崩壊による不況が本格的に到来し、商業的な不振に見舞われたアリタは、従来の外へ売り込みにいく方法だけではなく、町に人を呼び込む方法を模索し始めたのです。

ここでは焔博のグッズや写真などの資料とともに、アリタが「観光地」となる過程をご覧ください。

## 4. 平成の大合併

平成18年に「農のまち」西有田町と「陶のまち」有田町が合併し、新しい町が誕生しました。この時目標としたことは、異なる2つの特性を持ったまちの調和と融合でした。しかし合併から10年が経過した平成28年時には、調和と融合を果たした次なる目標として、地域の特性を生かしつつ、「ひと」にも着目した新たな局面を迎えることになったのです。

ここでは旧町の町章などのほか、今は取り壊された旧有田町役場壁面を飾っていた、彫刻家古賀忠雄の手による陶板を、初めて公開しています。

## 5. 花開いた「まちづくり」

「日本磁器誕生・有田焼創業400年」をはじめとした平成後半に行われた事業は、いずれも町民である「ひと」を主役に、人口減による「ひと」不足を考え、未来を担う子ども達へ伝統や文化を伝えるという、「ひと」づくりの観点から行われたものでした。ここまでの展示資料のうち、一部は閲覧用として手に取って見ることもできますので、どうぞご覧ください。

## 6. 平成アリタ、配信中

ここでは、平成に撮影されたアリタの映像を放映しています。平成初期に終了した泉山磁石場の採掘の様子など、今となっては貴重な映像の数々をどうぞお楽しみください。

## 7. あなたの平成大事件

30年と少しの平成の歴史を振り返り、皆さんが感じたことを自由にお書きください。50年、100年先の未来には、平成を物語る貴重な資料になることでしょう。

30年と一言で言ってしまうと、これは決して短い時間ではありません。この30年の間に変化したことは数多くあれども、日頃はなかなかそのことに気が



付きません。身近な「住んでいる町の歴史」を振り返ることで、自身にとっての平成とはどのような時代だったのかを考える一助になればと思います。展示品は、みなさんが平成を思い返すための道具です。どうぞ、楽しんでご覧ください。(永井 都)



企画展の展示風景

同時開催

令和元年度夏休み子ども向け教室  
**「歴史の川ざらい」成果展**  
**「ベンジャラを みつけたぞ!!」**  
&  
**有田中学校2年生職場体験**  
**成果展示**

夏休み子ども向け教室の一つである「歴史の川ざらい～ベンジャラを探そう!!～」の成果展「ベンジャラを みつけたぞ!!」を、企画展にあわせて開催しています。今年は8月2日(金)に実施し、町内の小学校に通う13人の子ども達とその保護者が参加しました。子ども達が拾った陶片の中から代表的な一点を選んで、元の形がどのようなもので、いつごろ作られたものなのか、どんな特徴を持つものなのかを解説しています。また、今年は職場体験にやってきた中学生が自らの手で、自分たちが体験した内容を展示という形で再現しています。アリタの子ども達の活躍をご覧ください。



「ベンジャラを みつけたぞ!!」展示状況

## 有田中学校2年生が 職場体験に やってきました!

令和元年9月18日(水)～20日(金)までの3日間、有田中学校2年生3名が職場体験にやってきました。今回のカリキュラムは、初日に館内およびバックヤードの説明と遺跡から出土した遺物の水洗い作業、2日目に町内遺跡巡りと遺物の実測作業、3日目に注記、拓本、そして展示作業を行うというものでした。生徒たちは初日こそ緊張していたものの、遺跡巡りを楽しんだり、難しい実測を何度もやり直したりと、意欲的に取り組みました。中でも注記という「いつ、どの遺跡の、どの地層から見つかったか」という情報を、遺物の断面に直接筆でとても小さく記入する作業では、1時間以上も練習した結果、かなり上手に書くことができました。この生徒たちの体験の成果は、今回の企画展会場に展示していますので、ぜひご覧ください。もちろん展示キャプションを作成したのも生徒たち本人です。

体験後、生徒たちから「遺物をすごく大切にしていることが分かりました」、「正確に展示するのがこんなに時間がかかって難しいとは知りませんでした」という感想のあと、「今回の体験を生かして、自分の将来の夢を見つけていきたい」という意気込みをつづった手紙を頂きました。郷土に誇りを持って、なりたい自分を見つけてほしいと思います。



注記の様子



展示作業中



## 新しいパンフレットが できました



新しいパンフレット

このほど、有田陶磁美術館（以下、美術館）と旧田代家西洋館（以下、西洋館）のパンフレットを一新し、有田内山伝統的建造物群保存地区（以下、伝建地区）のパンフレットを新たに作成しました。

これは、一つには「有田異人館」が平成30年12月25日に国の重要文化財に指定された際に、「旧田代家西洋館」と名称が変更されたことによります。また、今年4月には美術館の展示を全面的にリニューアルし、西洋館に関連づけた明治期を中心とした近代陶磁中心に変更したため、従来のパンフレットとは展示内容がそぐわなくなってしまったためです。そこで、より西洋館と美術館の一体感を醸成するため、表裏一つのパンフレットとしてまとめました。新しい「有田陶磁美術館・旧田代家西洋館」パンフレットでは、館の主な展示内容を解説しているほか、明治時代に建てられた両館それぞれの建物の歩みなどもご紹介しています。

そのほか、今回は新しく伝建地区のパンフレットも作成しました。このパンフレットでは、有田内山の町並みの特徴である漆喰塗りの和風町屋や洋風建築が混在する景観の中から、各時期の代表的な建物を紹介するほか、時期別に色分けした地図も掲載しています。この地図を片手に、製磁町有田の内山巡りを楽しんでみてはいかがでしょうか。

新しくなったパンフレットは、美術館や西洋館をはじめ、有田町歴史民俗資料館や有田観光協会でも無料で配布しています。ぜひ手に取っていただき、見学や散策の一助としてご利用いただければと思います。



## ICCROM(イクロム) 夏季セミナー

国際政府間機関ICCROMの夏季セミナーが、9月に佐賀大学有田キャンパスを拠点として開催されました。ICCROMとは、文化財の保存・修復に関する援助機関として1959年に設立された、ユネスコ機関である「国際文化財保存修復センター」のことで、本部はイタリアのローマにあります。

今回の夏季セミナーは、はじめてローマを離れて開催されたもので、9日から20日までの12日間、国や地域の異なる16名のさまざまな分野の保存・修復の専門家が参加されていました。期間中は、要請を受け9日と13日の二日間、当館職員による町内の文化財などの解説を行いました。9日は「有田内山ツアー」として、天狗谷窯跡や旧田代家西洋館、有田陶磁美術館、有田内山伝統的建造物群保存地区、陶山神社などを実際に歩きながらご案内いたしました。海外の方々にとっては、見るもの触れるものすべてが異国情緒あふれる有田の景観をご堪能いただけたようです。13日は「有田フィールドワーク」として、泉山磁石場や有田町歴史民俗資料館東館・参考館の展示のほか、出土文化財管理センターの陶片の収蔵状況を見学していただきました。どこも参加者の皆さま方にとっては珍しいものだったようで、大変興味深くご覧になっていました。特に、陶片の収蔵庫にご案内した際には、大きな歓声があがったほどでした。また、ご案内中は、陶磁美術館の建築について専門家としてのご意見をちようだいするなど、日常では見過ごしてしまいがちな



イクロム夏季セミナー案内風景

新たな視点に気付かせていただき、逆に、大変刺激となる素晴らしい体験をさせていただきました。

## 季刊『皿山』

通巻 124号 (令和元年 12月 1日)

編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒 844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山一丁目 4-1

☎ 0955-43-2678 FAX0955-43-4185

URL : <http://www.town.arita.lg.jp/main/169.html>